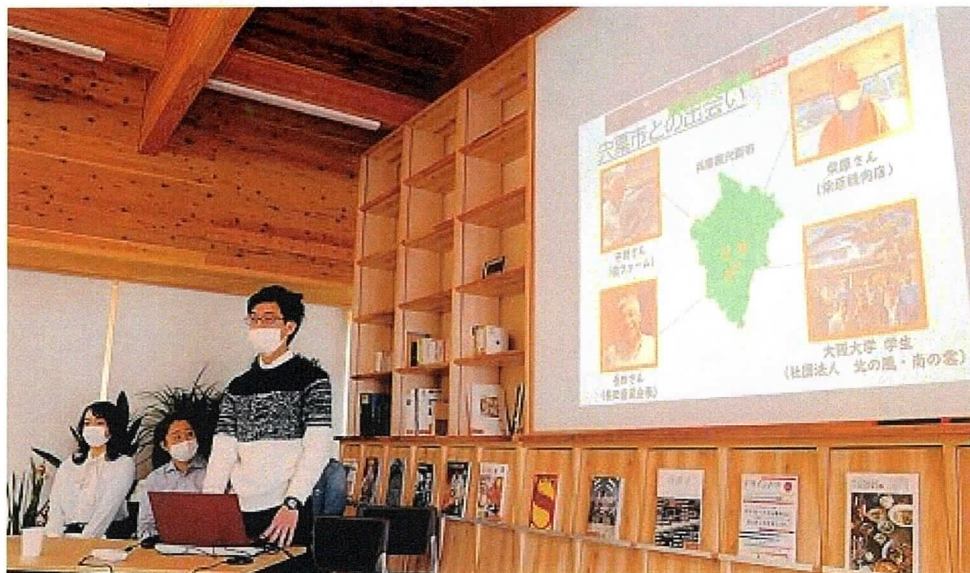


宍粟市での現地調査の結果を発表する大阪大学の学生たち
＝宍粟市山崎町御名、上林建設



阪大生5人、獣害など現地調査

宍粟の課題解決策を提案

地元在住の客員教授・思沁夫さん指導

大阪大学の学生5人が27日、宍粟市山崎町御名の
上林建設で、地域振興策
を発表した。宍粟市に住
む、阪大客員教授の思沁
夫さんの指導の下、学生
たちは獣害など同市の課
題を調べ、ジビエや地元農
産品のPR策などを示し
た。

思さんは中国・内モンゴ
ル出身で、文化人類学を専
攻する。今回の発表は「海
外フィールド・スタディ・
プログラム」の一環。これ
までは中国やモンゴル、ベ
トナムに渡り、現地の課題
解決策を探る授業だった
が、新型コロナウイルスの
流行で海外渡航が難しくな

り、思さんが暮らす宍粟市
での現地調査に切り替え
た。

法学部、工学部、外国語
学部の2～4年生は202
0年12月に宍粟市を訪れ
て、イノシシの解体現場を
見学し、薬草の一種ドクダ
ミを栽培する人から話を聞
いた。

この日の発表では、獣害
被害の推移や、漢方薬市場
の広がりをデータで示しな
がら、「獣害対策の補助金

マニュアルを作る」と地域
住民が求める情報提供を提
案したり、「ドクダミの粉
末を用いたドーナツやコロ
ツケなどの新メニューを生
み出す」と試食の成果を発
表したりした。

宍粟市で精肉店を営む柴
原政司さん(56)は「地元の
猟師でも補助金について詳
しくない人もいる。マニユ
アルは役立つと思う」と話
した。

(伊藤大介)